



広島女学院同窓会
埼玉支部だより

2017年5月 Vol.44



イタリア フィレンツェ

美しいアルノ川をはさんで、フィレンツェの街が一望できるミケランジェロ広場からスケッチしました。クーポラのドゥオーモ、ジョットの鐘楼等が見えます。

武内 淑子 (阿部) 高5

関東ブロック主催 広島女学院 創立 130 周年を

広島女学院同窓会会長大矢みどりさん(高23)の開会の言葉で始まり、賛美歌、聖書を頂き、広島女学院院長・学長の湊晶子先生に「人生の優先順位」のメッセージを頂き

《私は人生生きてきて、この年になってはっきり分かったことがある。

人生は選択の連続である。生きてゆくために最も近いものを選ぶこと》

その後「女性のライフキャリアを生かす」の講演では《他人と比較せず、一人立ちし、ぶれない人間を！劣等感の克服は、判断力・決断力・切断力を持つこと！

葡萄は砕かれて美味しいワインになる(ヘンリー・ナウエン)。私はキリスト教に基づく人格教育こそ、女性が最後まで輝くようになると思う》等とお話しされました。

食前の祈り・乾杯を星野晴夫広島女学院中学・高等学校校長に頂き会食に移り、その後聖路加国際病院名誉院長の日野原重明先生にごあいさつを頂きました。

開口一番「私の声が聞こえますか？」と仰られ、皆は拍手でお答えしました。はっきりと大きく良く通るお声で、最初から最後までトーンが下がらず、お父様である第三代院長校長 日野原善輔先生のことや、ご自身の二十歳時広島で療養されていた頃、回復して動ける様になって、女学院の音楽室でパーカー先生とピアノを連弾していたら、窓の外の女学院生の視線を感じ、得意満面になった85年前のご自分を楽しそうに語られました。そして会場はまったく不思議な空間に包まれ、参加者自身皆、学生時の自分に戻っていきました。



そして田中晶子さんのバイオリン演奏です。田中さんは広島女学院中学校を卒業(高校45回と同期になります)され、桐朋学園大学主席卒業、ケルン音楽大学に留学され現在NHK交響楽団第二ヴァイオリン次席奏者として活躍されています。バッハ作曲「無伴奏 パルティータ 第三番 作品1006」を演奏して頂き日野原先生初め皆聴き入りました。星野先生のピアノ伴奏で「主よ、人の望みの喜びよ」を教え子である田中さんとお互いを思い合う温かさで、心に沁みる演奏をサプライズで聴かせて頂きました。

そして、岸田裕子外務大臣夫人(和田・高35)からもご挨拶を頂き、同窓生の歌「どんなに時が流れても」と校歌を斉唱し、最後105歳の日野原先生から始まり95歳の高橋喜美子(加藤・高女45)さん等、40名参加の高14回生が紹介されると歓喜の声と同時に80本の手が上がり、そのエネルギーは広い会場を揺るがすものでした。18名参加の高27回生(還暦)もしかり。関東ブロック長の坂下恵さんが、この祝会に携わった全ての方々に感謝とお礼を丁寧に優しく述べられ閉会しました。239名の集いでした。うち埼玉支部21名。(清水)